

三中だより

令和2年度 10月号



令和2年10月16日発行
荒川区立第三中学校
(学校通信 No. 8)
校長 小柴 憲一

生徒会役員選挙終わる ～生徒会本部の運営は2・3年生から1・2年生へ～

令和2年10月2日(金)、生徒会役員選挙が行われました。

9月23日(水)の全校朝礼では、選挙活動に入る前として、有権者が真剣に選挙に向き合うことが、生徒会の自治活動への責任ある参画態度となり、そのような集団が醸し出す雰囲気には、正義があり、誠実さがあり、公正・公平であり、不正や人権を侵害する行為に対して暗黙の圧力があるという話をしました。

そして、選挙当日には、以下のような話をしました。

「選挙」については、先週の全校朝礼でもお話しましたが、候補者による選挙活動、政見放送、本日の演説や推薦者による応援演説により自分自身の考えはまとまったでしょうか。その考えを、他人に左右されず、他人と意見交換することなく、投票という形で表明してください。

さて、皆さんは12歳から15歳だと思います。すでに、公職選挙法の改正により選挙権年齢が18歳に引き下げられていることは知っていることと思います。

今から、今後の国政選挙・地方選挙が行われる予測時期をお伝えしますので、そのとき自分は18歳になっているかどうか計算してみてください。なお、選挙の年月はあくまでも予想であることと、衆議院議員は任期はあるものの、制度により、選挙が行われる時期が予測できないため、ここでは省きます。

まず、令和4年7月に参議院議員選挙。次に、令和5年4月に荒川区議会議員選挙。次に、令和6年11月に荒川区長選挙。次に、令和7年7月に参議院議員選挙。そして、令和9年4月に荒川区議会議員選挙が行われることが想定され、ここまでで、皆さんの全てが投票所に行って1票を投じることとなります。

つまり、基本的な人権の1つである「参政権」を行使する日まであとわずかだということです。だからこそ、先生方は皆さんの「社会を構成する一員としての自覚」を高めてもらうために、様々な取組を行ったり、学習活動の場を設定したり、修学旅行・運動会などの行事を通して自主的な活動を促したり、日常的な指導をしているのです。

この後、投票所に向かい自分自身の意見を表明してもらいます。

ぜひ、「生徒会を構成する一員」だという強い気持ちをもって、権利を行使するその裏側



には責任が伴っているという重みを感じて1票を投じてください。

選挙管理委員の皆さん、任期終了まであとわずかです。どうかよろしくお願いします。

小学校でも、6年生から5年生にバトンタッチされていく役割がいくつかありますが、中学校では、この時期に生徒会の運営自体が1・2年生に移行され、部活動は2年生が中心となります。ただし、3年生は依然として生徒会の構成員であり、委員会の活動ではいわゆる顧問のような存在としてアドバイスをする立場になり、全校生徒が集まる場では、行動で模範を示し続けていくものです。

以下の、会長をはじめとする新本部役員生徒の、自治的な活動により、正義があり、公正・公平であり、誠実さがあり、不正や人権が侵害されている行為への暗黙の圧力をかけられるような雰囲気醸し出してもらうことを期待します。

職	学年	氏名
会長	2年	三宅 陽菜子
副会長	2年	花井 遥香
//	1年	森田 葵生
書記	2年	岡本 颯太
//	1年	加島 佑果
庶務	2年	中島 遼賀
//	1年	森 陽生

3年修学旅行終了

生徒会役員選挙の翌日、3日(土)から5日(月)にかけて、3年生は京都・奈良方面に修学旅行に行ってきました。

今回の修学旅行は、「安全・安心」そして「健康維持」が大テーマでした。

宿泊の部屋は、一人当たりの面積が広いホテル型を選択するとともに、ユニットバス付きで入浴時の感染防止を図りました。また、感染経路を断つために、班に一つジェルタイプのアルコール消毒液を持たせ、班行動中も、常に手指消毒をするよう指導しました。さらに、タクシー行動は空間の広いワンボックスのジャンボタクシーで移動させました。そして、朝食・夕食の時は、非接触型体温計で一人一人の体温を測った上で会場に入れました。

一方、旅行業者が手配した、ホテルや食事場所では、随所にアルコール消毒液が常備されているとともに、食事場所では全員前を向くテーブル設定や、フィルムで前や左右を仕切っているなど、感染防止策が徹底されていました。





観光業に携わっている方々にとっては、修学旅行生が観光に来ることは大歓迎だったと思います。ただ、京都・奈良市民の方々は、私たちをどのように見ていたのでしょうか。一般の方々とお話する機会がなかったので正確に把握することはできませんでしたが、大型の観光バスで奈良方面を走っているとき、通りを歩いている市民の方が珍しそうに観光バスを見上げたり、指先でバスを追ったりしている姿を複数回見ました。一言で言うと「視線を感じた」ということでしょうか。



また、京都市内班行動をしている本校の生徒を遠くから見ているとき、方言で「あの子たち、修学旅行生じゃない?」という言葉は何度か聞きました。土産物屋の中では、観光客が、こういうのは「あそこにいるような修学旅行生にとって手頃だからあるんだよ」などの話しも聞こえてきました。



ただし、誹謗・中傷を受けたりすることはなく、おそらく、「ようやく修学旅行生が戻ってきた」「ようやく観光バスが走るようになってきた」と感じている方の方が多いのではないかと思います。決して全員がそう思っているはずはないと、私たちは改めて気を引き締めるべきだと感じました。



ご家庭でも Go To キャンペーンなどをご活用いただくこともあるかと思いますが、私たちは、それぞれの業



種、ご年齢、家族環境等により、様々な受け止め方があるということを忘れてはならないと思いま

した。

それでも、京都・奈良の景観は変わってはいませんでした。生徒たちは、その雰囲気を感じるとともに、京都や奈良の言葉に触れ、厳しい制限だらけの修学旅行ではありましたが、何かを感じてくれたものと思います。

彼らが大人になったとき、「私が中学の時の修学旅行は、当時、新型コロナウイルスっていう感染症が流行していて、ずっとマスクをつけていて、年中手を洗ったり、消毒したりして、ご飯を食べるときはマスクを外すから『しゃべるな！』って言われたんだよ。食堂に入るたびに検温を受けて、もし、熱があったらどうなっちゃうんだらうとひやひやしたんだよ。」なんて昔話ができれば、それはそれでいいのかなとも思います。



運動会練習始まる

運動会の特別時間割が12日(月)より始まり、生徒たちは体育着登校となり、15日(木)からは学級ごとの決議で7:30からの朝練習も始まりました。

最初の全体練習や学年練習では、ラジオ体操や行進の演技練習が中心でした。1年生にとっては、上級生の集団の姿を見るのが今年度ほぼ初めてと言っていいくらいなので、いい学習になっていると思います。

さて、三中の運動会を知っている2・3年生の様子を見ていて感じることは、自分たちの学級・学年の絆を深める機会にしたい、そして自分たちの力を出し切りたいという、自己が所属する組織の達成感を得ることが大きな目的となっているように感じます。

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、運動会の例年の種目の変更や取りやめがある中でも必死に頑張っている様子を見て、心を打たれる思いがします。

ただし、本校はご存じのように、区内で最も生徒数が多い中学校で、その割に校庭は200mトラックでほぼ外周の余地はなくなる状況で、在籍生徒数に対して広くはありません。生徒の応援席の椅子の間隔を例年以上に前後左右に広げていくと、本部席・救護場所・招集場所・用具置き場・入退場の場所等を除くと1周してしまいます。つきましては、12日付のお手紙でもご案内いたしました。保護者の皆様の感染防止を図る観点からも、今年度は、保護者の皆様のご入場を控えていただきますようお願いいたします。その代わりに、委託業者によるライブ配信の契約を進めるとともに、親父会の皆様にもライブ配信のご協力をいただく予定です。なにとぞご理解賜りますよう、よろしく願いいたします。

